

教育長定例記者会見 会見録

日時：令和2年11月9日（月） 10時45分～

場所：教育委員室

発表項目

- ・ インターネット動画コンテンツ「Shabunka-TV 社文課テレビ」の公開について

質疑事項

- ・ 定例会の議題について（2021年度に向けて30人学級とゆき届いた教育を求める請願について）

発表項目

○インターネット動画コンテンツ「Shabunka-TV 社文課テレビ」の公開について

皆さんおはようございます。よろしくお願ひいたします。

今日は1件、発表させていただきます。項目は、インターネット動画コンテンツ「社文課テレビ」、社文課というのは社会教育・文化財保護課を略しますけれども、の公開についてです。

教育委員会では、新型コロナウイルス感染症が拡大する中であっても、文化財等についての情報発信を継続させていただくために、動画コンテンツの公開を本格的に実施するというものです。

作成の経緯ですけれども、従来、講演会とかトークイベントとか、いろんな催し物も通じて、文化財とかの情報発信を行ってきたところなんですけれども、今年度はそういったものが、実施がなかなか難しいような状況も続いております。このため、インターネットの動画コンテンツ「社文課テレビ」というのを新たに作成しまして、夏ぐらいから少しテスト的に順次公開を行ってきましたが、この度本格的に実施をすることになりました。

動画の内容ですけれども、あとで少し見ていただきますけれども、教育委員会の職員が、文化財とかの所在地を訪れて紹介したり、ゆかりのある人物にインタビューをしたりいたします。また、イベントについても紹介をいたします。

今のコンテンツの内容ですけれども、この夏に、疫病退散の祈りを紹介するコンテンツ、それから、ユネスコ無形文化遺産登録をめざします海女漁の技術を紹介するコンテンツなど、6本を作成しております、7月29日からテスト的に公開を開始いたしまして、10月30日までに、累計で3,012回の視聴をいただいております。

6本が、その下の疫病退散パネル展の内容でありますとか、民俗行事のパネルでありますとか、それから疫病退散の古代人の護符ということで、海女さんの「セーマン」「ドーマン」ですね、これについてのもの。それから、「海女を語る！」というので、1回、2回、3回

と順次公開をさせていただいています。それから、今後公開ということで、明日 11 月 10 日に、「世界遺産『熊野参詣道伊勢路』を歩く」というものの第 1 作を公開いたします。

この内容、ちょっとチラシも入れさせていただきましたけれども、その下にありますけれども、第 1 回は「荷坂峠に見渡せば」ということで、伊勢路を現地から紹介するシリーズなんですけれども、伊勢を起点に熊野へ向かった巡礼者が、宮川、大内山川に沿って谷を進みながら、初めて海を目にした荷坂峠を紹介するものでございます。

それから 11 月 17 日には、「歴史の道百選」というのがございまして、その中の一つ、東海道の関宿、鈴鹿峠というものを公開する予定にしております。この鈴鹿峠は、ご案内のとおり、東の箱根と並んで東海道随一の難所として知られておりました。現地から、現在の道の様子を紹介するものです。

ちょっと少し、前のモニターでご覧いただければと思います。

～「社文課テレビ」ダイジェスト版放映～

はい、ありがとうございます。こういった内容で、順次させていただきたいと思っています。

それから、資料のほうですけれども、この動画については、修学旅行とか社会見学の事前学習でありますとか、それから地理歴史の学習等にも利用していただきますように、県内の小中学校や県立学校とかにも周知するほか、三重県営業本部、それから南部地域活性化局、観光局とも連携して、広く県内外の皆さんにも周知していく予定です。

中身としては、1 作品につき 3 分から 5 分程度の長さを目安としております。どなたでもご視聴いただけます、「守ろう活かそう三重の文化財」のフェイスブックページにアクセスをしてください。その後ろにチラシをつけさせていただいております。

私からは以上です。よろしく願いいたします。

発表項目に関する質疑

○インターネット動画コンテンツ「Shabunka-TV 社文課テレビ」の公開について

(質) 本格的に実施しますっていうのは、何をもちって本格的に実施ということなんですか。

(答) 少し今までも番組としてはさせていただいていたんですけれども、明日から、少し試行的というか反応もうかがいながらさせていただいていたところがございます、明日のこの「熊野参詣道伊勢路」というものをもってしてですね、我々としては本格的にという思いで、こういうふうにさせていただいたところです。

(質) 何か「定期的にアップしていきますよ」とかいう意味合いなんですかね。

(答) そうですね。今申しあげました熊野古道伊勢路を定期的にやるということと、次の「歴史の道百選」についても計画的にさせていただくということと、それからそのあとも、例

えば昨日、優良紀州犬の審査会があったんですけれども、そこでもその会員の方とかにインタビューしたということも今しておりますので、そういったことを今後計画的にさせていただくという意味で、明日から本格的に始めさせていただこうということをしております。

(質) 全部の回、さっきの番頭さん、伊藤文彦さんですか、これまでの全部で6回ありますよね。だいたいあの方が出ていたと思うんですけど、1人の方でやられてるんでしょうか。

(答 社会教育・文化財保護課) 失礼します。私、伊藤でございますけれども、番頭と言っておりますのは、インタビューをするときのインタビューをする側の人間ということで出させていただいております、私がインタビューをする場合もあれば、他の者がインタビューをする場合もございます。

(質) これ、フェイスブック上での公開ということですけど、例えば他の YouTube だったり、そういったものに公開する予定とかは、特にありますか。

(答 社会教育・文化財保護課) YouTube のほうは、今後環境が整えば、あげていきたいというふうには考えております。

(質) それはいつぐらいですか。

(答 社会教育・文化財保護課) 今のところ、めどはちょっと何とも申し上げられないんですが、できるだけ早くというふうには思っております。

(質) 難しいんですか、そんなに。何でそんなに時間がかかるんですか。

(答 社会教育・文化財保護課長) 全庁的に今、広聴広報課のほうで YouTube の管理をしております、その中にどのような形で「社文課テレビ」を組み込んでいくかということで、今協議させていただいている最中で、その辺の協議が整えばアップしていきたいというふうには考えております。

(質) これは今年度から始めた事業ですか。

(答) はい。そうです。

(質) 今年度から試験的にやって、明日の公開をもって本格的にと。

(答) おっしゃるとおりです。

(質) 「本格的に」がやっぱりちょっと言いづらい。「何々をもって本格的に」と言いたいんですけれど。

(答) そうですね。

(質) これまでは不定期だったけど、これから定期になるとか、そういう感じでもないんですか。

(答 社会教育・文化財保護課) シリーズ物としてのこの「世界遺産熊野参詣道を歩く」というのを、今後定期的にあげていきたいと思っております。これをもって本格的というふうにお願ひできればと思っております。

(質) これまでは不定期だったものが、熊野参詣道のシリーズなどを定期的にあげていくことをもって本格的な導入というか。わかりました。

- (質) 「海女を語る」も3回やっていたりするんですよね。
- (質) これはもともと講演会やトークイベントなどができないということで、実際に中止になった件数とかはあるんですかね、データのものは。
- (答 社会教育・文化財保護課長) ちょっと今、手元には件数までは持ち合わせていないんですが。
- (答 社会教育・文化財保護課) 分かる範囲で申し上げますと、まだ中止としているわけではないんですが、今年度、「世界遺産講演会」、それからもう1つが海女のパネル展、これらについて実施を計画しておりますが、現在のところ延期の状態が続いておるとい状態です。何とか開催できないかということは考えてはいるんですが、今、延期という状態になっております。それから、カモシカについても、今のところ1つ、講演会シンポジウムのようなものが、これは中止ということになっております。
- (質) じゃあ3つということですか。
- (質) この3つの総額はいくらですか、予算額。
- (答) ちょっとあとで、数字を出させていただきます。
- (質) 件数も。
- (答) はい。
- (質) 例年の事業費、それがチャラになったから、これにまわすっていうんですよね。チャラというかできないから。だから例年の総事業費。「社会教育文化財課」ですか。ちがうな。
- (答) 「社会教育・文化財保護課」です。
- (質) 保護課さん。それでタイトルは社会教育・文化財の略称なんですね。まあいいや。そういう平年の事業費がチャラになった分と、それで今度その動画コンテンツをするのに投入する予算額。
- (答 社会教育・文化財保護課長) 動画コンテンツに係る予算額なんですが、我々で作成しておりますので、ほとんどかかっていないと。人件費なり旅費なり。
- (質) 委託はしていないってことですね。
- (答 社会教育・文化財保護課長) はい。委託はしていないです。
- (質) 自作ですか。
- (答 社会教育・文化財保護課長) はい、自分たちで。
- (質) 編集も。
- (答) はい、編集もです。
- (質) これ、浮いた予算額はどうするの。返納するのか。
- (答 社会教育・文化財保護課長) 浮いた場合は最終補正で、はい。
- (質) 返納するのね。よくあるのは、例年獲得するためには、ダミーでも何かやっとなあかんねんけども、それはもう無条件で返納するの。
- (答) そうですね。

- (質) 新年度はまた、それと同じような予算額は要求するけど。
- (答) はい。というかコロナの関係で、またかかっている経費も発生しておりますので、その辺は相殺してですね、最終補正で精算するという形になるかと思います。
- (質) 口頭でいいですけど、だいたいこれにかかるお金は例年どれくらいですか。ここにかかる講演料とか、トークイベントにかけている予算額って例年。
- (答 社会教育・文化財保護課長) その辺はちょっと今、正確な数字は持ち合わせていないので。すみません。
- (答) 事業名と予算は、あとで資料を入れさせていただきます。すみません。
- (質) これって今年度のみの事業なんですか。
- (答) これは継続的にしていきたいと思っております。
- (質) ずっと続けていく感じなんですか。
- (答) はい。
- (質) ネタってそんなにあるんですかね。
- (答) 先ほども申し上げましたように、例えば紀州犬とかもそうですし、いろんな文化財もですね、民俗文化財ということで、例えば祭であるとか、いろんなものがございまして、それから埋蔵の文化財という形もございまして、さまざまな文化財がございまして、順次そういったことを県民の皆さんに広く知っていただきたいというふうに思っております。
- (質) どんな期間で作っていくんですか。何か月に1本とか。
- (答 社会教育・文化財保護課) だいたい今、ひと月に2本ずつ公開していくことをめどに頑張っていきたいと思っております。
- (質) 世界遺産シリーズは何回ぐらい考えているのか。
- (答 社会教育・文化財保護) 全体としては、だいたい10回ぐらいになるのかなと考えております。
- (質) 「歴史の道100選」は100回？
- (答 社会教育・文化財保護課) いえ、歴史の道は三重県内にありますが、この鈴鹿峠のところ、今回公開するところと、もう一か所、伊勢本街道のところがありますので、その2回をまずやっっていこうと思っております。あともう一か所が熊野参詣道ですので、それを世界遺産シリーズのほうでやっていくということになります。
- (質) さっき教育長が言われたように、他にアイデアとして、何回分ぐらいあるんですか。
- (答 社会教育・文化財保護課) アイデアとしては、すでに撮影が済んでいるものが、先ほど教育長が申しましたが、歴史の道の鈴鹿峠のところと、それから紀州犬は既に撮影が終わっています。それ以外はさまざまな文化財が県内に多数ございまして、それらを順番に取材をしていくということになりますので、ネタとしたら少なくとも100本以上はあるというような状態です。
- (質) 伊藤様はどこの所属の何をされている方ですか。

- (答 社会教育・文化財保護課) 私は、社会教育・文化財保護課 記念物・民俗文化財班で係長をしております。
- (質) 失礼いたしました。教師はどこかでやっていらっしゃったんですか、先生は。
- (答 社会教育・文化財保護課) 私は文化財技師でございます。
- (質) なるほど、なるほど。
- (質) コーディネーターは伊藤さんのみではなくて、他にどういうメンバーがいらっしゃるんですか。
- (答 社会教育・文化財保護課) うちの課の他のメンバーが、インタビューをする人間にもなるということを今予定しています。
- (質) 基本的には、社会教育・文化財保護課の方が複数名。
- (答 社会教育・文化財保護課) はい、そうです。
- (質) 特に著名人とか、そういう見てすぐに分かるような人がゲストで来るとか、そういう可能性はないんですか。
- (答 社会教育・文化財保護課) 著名人はなかなか。むしろ対象となる文化財のほうで勝負をしていきたい。
- (質) 動画を見る限り、文化財の「セーマン」「ドーマン」も、ちょっとどこに映ってんのかよくわかんない。
- (答 社会教育・文化財保護課長) ご意見をいただきながら、いろいろ改良していきたいと考えておりますので、ありがとうございます。
- (質) 伊藤さんはユニークなキャラクターですけども、何か職歴はあるんですか。レポーター歴とかテレビ歴とかなんか。
- (答 社会教育・文化財保護課) そんなものはございません。
- (質) 普通に生きてきてそのキャラクターなんですか。
- (答 社会教育・文化財保護課) 一応まっとうに生きております。
- (質) 教育長、いい人材を見つけたわけですね。爆発するかも、ブレイクするかもわかりませんね。
- (質) すみません。伊藤さん、おいくつですか。
- (答 社会教育・文化財保護課係長) 私、今、43(歳)でございます。
- (質) 趣味とかはあるんですか。
- (答 社会教育・文化財保護課係長) 何でしょうね、文化財巡りが趣味かもしれません。
- (質) ちなみに県教委自作のこういう動画ってどうなんですか、他の都道府県は。つまり、都道府県教委が自らこういう動画を作成するっていうのは、あんまり聞かないわけですけども。
- (答) そうですね。我々もあまり把握はしていませんね。
- (質) どこかを参考にしたってわけではないんですか。
- (答) そういうことはありません。

(答 社会教育・文化財保護課) 参考にしたというわけではないです。

(質) 着眼点というのはどこから来たんですか。つまり作るきっかけは。

(答) そうですね、着眼点としましては、YouTube でたくさん番組がありますけれども、その番組なんかがすごく楽しくいろいろ情報を伝えておられるので、そのユーチューバーの方々の伝え方なんかを参考にすれば、文化財のことを楽しくさまざまな方にお伝えすることができるんじゃないか、特にオンラインで伝えることができるというのは非常に強みなのかなというので、1回それっぽく作ってみたと。

(質) それは伊藤さんのアイデア？

(答) これまでも、「守ろう活かそう三重の文化財」というページはあったんですけども、今回、冒頭から申し上げていますように、いろんなこれまで講演会的に発信してきた機会がなくなったということで、やっぱりいろんな状況を見たときにですね、我々としては文化財を、大綱も作りまし、しっかり県民の皆さん一人でも多くの方に知っていただきたいと、知っていただいて興味をもって現地も訪れてほしいということはずっと考えていてですね、それを伊藤を中心に社会教育・文化財保護課のほうでいろいろ考えて、こういった形に至っているという状況です。

(質) 保護課の中で伊藤さんのアイデア？

(答 社会教育・文化財保護課長) 私からも、コロナをきっかけに動画のコンテンツがあるといいなと、会議が中止だけじゃなくて、何か代わるものと話をさせていただいて、結果考えてもらったと、これならできるんじゃないかと。

(質) ただ、やっぱり YouTube でいいんじゃないかと思うんですけどね。つまりフェイスブックだと2段階必要じゃないですか。YouTube で公開したらと思っちゃうんですね。

(答) そこは当然おっしゃるとおりですので、我々もできるだけ早く YouTube のほうに移行できるようにやり取りしているところです。

(質) フェイスブックを選択したのは、もともとそういうサイトがあったからということなんですか。

(答 社会教育・文化財保護課長) そういうことです。

(質) 冒頭でも申し上げましたが、ナンセンスなネーミングですが、今だったら変えられるから、もっとおしゃれなネーミングにしたらどうですか。「社文課」って何か別の案内かなと思ったんですけど。

(答) 我々は社文課ということですね、そういう意味でも興味を持っていただければと思うんですけども。

(質) わからんわあ。小学生に社文課って言っても、何ですかってわかりませんよ。

(答) いろいろ本格的に明日からやる中でもですね、また多様な観点でも考えていきたいというふうに思っております。

(質) 今だったら間に合いますよ、名前変えるの。

(質) 伊藤さん、下の名前は。

- (答 社会教育・文化財保護課) 文彦と申しまして、文章の文に彦根の彦です。
- (質) 発表には文化財等と書いてあるんですけど、文化財以外も何かやるんですか。
- (答 社会教育・文化財保護課長) 社会教育・文化財保護課は、文化財と社会教育の面もありますので、今のところコンテンツはないんですけども、コンテンツが出てきそうでしたら、社会教育の分野にも広げていきたいなという思いがありまして。
- (質) 社会教育の分野って例えば何がテーマになるんですか。一般的に社会教育ってどんなものか、それがイメージできないと「等」とつけても意味がない。
- (答) 例えば市町でされている公民館活動とかですね。
- (質) そんなのを動画にするつもりは、今はありますか。
- (答) 今はまず文化財のほうでしっかり発信していきたいです。
- (質) じゃあもう「等」はなくていいですね。またそれをやるときに。文化財を発信する動画コンテンツということ。
- (答) そうですね。
- (質) 名前ですけど、アルファベットの「Shabunka-TV」と漢字の「社文課テレビ」、両方合わせて名前ですか。どちらかでもいいのか。正式名称はどれですかね。
- (答 社会教育・文化財保護課) 「シャブンカティーヴィー」と中では言っているものから、「Shabunka-TV」のほうを愛称にさせていただいて、「社文課テレビ」という日本語のほうを正式名称にさせていただければ幸いです。
- (質) アルファベットが愛称で、仮に正式名称を言うとしたら漢字とカタカナの「社文課テレビ」と。
- (質) ただし、ネットで検索しようとしたときに「社文課テレビ」といっても、多分社文課って五万とあると思うんですよ、実際 3,000 自治体あるから。ここで紹介しているように「三重県 社文課テレビ」としないと検索できないわけでしょ。社文課やったら 3,000 自治体あるから、正式名称としては「三重県社文課テレビ」じゃないんですか。
- (答 社会教育・文化財保護課) 今のところ「社文課テレビ」というのが言いやすさ、「Shabunka-TV」や「社文課テレビ」には言いやすさがありますから、音で聞いたときに、「Shabunka-TV」、「社文課テレビ」という名前にさせていただいているんです。
- (質) 分かりました。そういう名称であると。ただし検索するときは、「三重県 社文課テレビ」と検索してくださいと。
- (答 社会教育・文化財保護課) そうしていただければ確実にヒットいたします。
- (質) 学校で使ってもらう予定はあるんですか。
- (答) こういうことを三重県教育委員会として作成し始めましたということ、これから、今日から周知をしていくということです。具体的な今予定があるというよりも、実際県内の修学旅行とか社会見学とかも増えていきますので、ぜひとも使っていただきたいということ、周知していくということです。
- (質) 現状は教育委員会の意向ということか。

(答) そうです。思いとして。

(質) 修学旅行とか社会見学の具体的にどういう位置付けとして使ってもらえたらいいとお考えですか。

(答) 今年度、県内の修学旅行へ小中学生がたくさん行っていただくということになりましたけれども、事前学習とか、実際に行く地域にどういった文化的な資産、見どころがあるかという学習は、小中学校の児童生徒さんはされますので、そういった事前学習のところで、皆さんで簡潔に見られるコンテンツとして見ていただければと思いますし、場合によっては行けなかった箇所も、他にもこういったものがあるということで、さらに興味関心を広げてもらえればありがたいなというふうに思っています。

(質) そういった意味では、県内に限らず、県外からも今修学旅行に来られていると思うんですけれども、近隣県とかには。

(答) そうですね。ご指摘のとおり、近県からも来ていただいていますので、何らかの形でもう一度考えて、届くような形で考えていきたいと思っています。

(質) これはコロナがなくなっても続けるのか。

(答) そうですね、続けていきたいというふうに思っています。やっぱりこういった形で、児童生徒や大人の方が情報を収集していただくという状況がますます広がっていくと思いますので、我々は貴重な文化財を指定・保護するご支援をさせていただいているところもございますので、より身近なものとして、こういうのに興味を一人でも多くの人に持っていただいて、現地を訪れるきっかけにさせていただければなというふうに思っております。

その他の項目に関する質疑

○定例会の議題について (2021 年度に向けて 30 人学級とゆき届いた教育を求める請願について)

(質) 定例会の議題の中で請願がありまして、30 人学級があったかと思いますが、津市の前葉市長が要望に来た際に 30 人学級を要望されていましたが、県としては 30 人学級を国に求めていくのか、もしくは県として何か独自にやっていく予定があるのかを教えてください。

(答) 三重県では、小学校 1、2 年生は 30 人学級、下限 25 人、中学校 1 年生は 35 人学級、下限 25 人でやらせていただいています。それは、今までの考え方としては、基礎学力の定着であるとか、基本的な生活習慣の定着を大きな目的としてさせていただいています。今回コロナウイルスということで、学校において安全な状況を確保するという意味合いでも求められつつあるということがございます。一方で、国の概算要求において、これから学級編制の引下げも含めて、少人数の指導体制の計画的整備について予算編成過程で検討するとされていますので、まずは国に対して本県の少人数学級の効果を説明しながら、学級編制の引下げが計画的に進むよう、前に動くように強く要望をしていきたいと思

っています。我々としても、国の予算編成過程などさまざまな検討状況を見据えながら、
どういった対応ができるか検討していきたいと考えています。

(質) 鈴鹿のほうで、小学校とか幼稚園とか中学校でコロナが発生して感染するような事例
もあるんですけど、PTAとしてはそういう過密状態を解消するために少人数学級を実
現してくれということですが、そういう現状と今言われたような弱々しい要望とは、そぐ
わないと思うんですけど。

(答) すみません。私の言い方が十分でなかったかもしれませんが、今まで基本的な
生活習慣の定着とか学力の向上を図るために、県独自で少人数学級を進めてきましたが、
今回のコロナの状況の中で、影響がある中で、子どもたちが安全安心に学べる環境を確保
するためにも、少人数学級の推進というのは、我々県教育委員会としても重要な事項であ
ると認識しております。先ほど申し上げたような国の状況もありますので、まずは少人数
学級が計画的に推進されますように、三重県において今まで取り組んできた少人数学級
の成果とか長所をしっかりと国に対して説明して、少人数学級の推進が前に動くようにし
っかりと強く要望していく所存です。

(質) 国に強く要望していくのが所存ですとおっしゃいましたが、この請願に対しては教育
長の意見としては不採択といたしたいということですよ。今回の請願について教育長
が不採択としたい最も大きな理由は何ですか。

(答) 今回の請願において、要旨として、25人の下限条件をなくして小中高の全学年で30
人学級を計画的に実施することということで、加えて、少なくとも小学校1年生で25人
下限条件を早急になくすことということが求められているところです。請願に対してで
すけれども、我々が下限25人を設定していますのは、対象とならない学級や他の小学校
1、2年生とかの学年においても、一定のきめ細かな指導ができるような少人数教育とい
う形の定数や非常勤を配置しているところです。請願にありますような、例えば小学校1
年生だけでも30人学級を下限なしで実施することになりますと、新たに50人の教員の
数が必要になるということで、新たな人の配置が県独自でいるということで、下限の廃止
は難しいと認識しているところです。ただ一方で、先ほど申し上げたコロナ禍における学
校でのより安全安心な環境の整備が重要な事項と思っていますので、そこについては現
在、国においてもそういったことを予算編成過程で検討していくこととしていますので、
そこはそこでしっかりと要望をしていきたいと思っています。

(質) それを聞いてしまうと、採択の理由を言っているように聞こえてしまうわけですよ。
難しいけれど、国に対して請願で求めていくわけですよ、最終的には。

(県) いや、この請願は、県教育委員会への実施の請願になっています。

(質) 例えば、それに対する予算措置であつたりとかを国の方だと教育長がおっしゃいま
したが、仮にこれを採択して、その分の予算措置を国に求めていくということではできないの
ですか。

(答) 説明を続けてしてしまったのでややこしくなったかも知れませんが、この請願は三

重県の教育委員会においてまず実施という請願になっていますので。

(質) これを採択してしまうと、国の予算措置がどうであろうとやらなければいけないから
ということですか。

(答) そうです。

(質) 分かりました。

以上、11時24分終了